

稲作だより

第3号

本田・初期
管理編

発行:平成22年5月31日

北村山農業技術普及課

移植期はおおむね好天に恵まれましたが、今後も気象情報に注意してください。

6月の作業のポイント

1. 水管理によるイネの生育調節 2. 葉いもちの予防 3. カメムシ対策

1. 田植え後の水管理のポイント

今年の乾土効果は小さい

- ・春先の天候不順により、今年の乾土効果は小さいと見られます。できるだけ初期生育を確保するようにこまめな水管理を徹底しましょう。

キメ細かな水管理を徹底

- ・日中止水、夜間かん水を基本に、低温が続くような時は深水としてイネを保護します。
- ・山間部などで「冷水掛かり」の田では、畔シートなどで漏水を防止し、迂回水路や温水チューブを活用して、水温を高め、初期生育を確保しましょう。

ワキ防止

- ・ワキ(土壌還元)による生育の停滞や葉色の低下がみられた場合は、天気の良い日を選んで落水し、水交換するなどして対応しましょう(1日程度)。

一部、苗の生育が劣ったほ場について

- ・苗の生育が遅れ、初期生育の確保が難しい場合、活着期に硫酸など即効性の肥料で追肥を行ないます(例 はえぬき 窒素成分2.0kg/10a)。

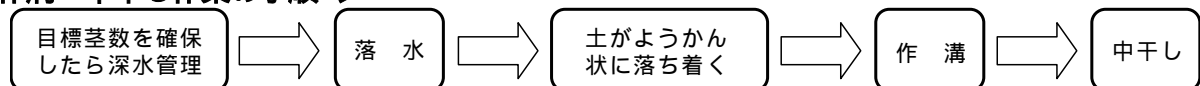
2. 作溝・中干しによる生育調節

目標茎数の確保

- ・6月20日頃までに目標茎数を超えた場合は深水(10cm程度)とし、無効分げつを抑制し、茎の充実を図りましょう。
- ・6月25日以降は、目標茎数を確保した田では、直ちに作溝・中干し管理を実施しましょう。
<株あたりの目標茎数のめやす(4~5本/株、70株/坪植えの場合)>

はえぬき 22~23本、ひとめぼれ 23~24本、あきたこまち 22~23本、つや姫 20~21本

〔作溝・中干し作業の手順〕



< ポイント >

作溝は3~4mの間隔とし、水尻(排水)に確実につなげましょう。

中干しは、6月25日頃~幼穂形成期(7月上中旬)まで行いましょう。

- ・茎数が多く葉色が濃い場合 田面に小ヒビが入る程度
- ・目標茎数よりも少ない場合 田面に靴跡がつく程度、やや弱めにします。

中干し後は飽水管理(足跡に水が残る程度)とし、徐々に間断灌水に切り替えましょう。

3. 葉いもち対策

置き苗の放置は「葉いもち」蔓延の元凶

- ・例年、6月上旬に、田に放置された補植用の置き苗から、いもち病が発見されます。
- ・声をかけあい、地域ぐるみで処分しましょう。

早期発見・早期防除が重要

- ・箱施用剤などで「いもち予防剤」を使っていない場合、6月20日までに遅れずに水面施用剤を散布します！薬剤ごとの使用基準を守り適正に使用しましょう。
- ・いもち病菌は、ほぼ1週間で世代を繰り返し、爆発的に増えます。暑くて湿度が高い、寝苦しい夜に感染しやすくなります。田を巡回して葉いもちの有無を確認しましょう。

こんな場所は要注意！

- ・田の中で葉色が濃く（窒素が多い）、葉が伸びて、垂れているような場所は感染しやすくなります。

～葉いもちの病斑を発見したら、JA、普及課等に相談の上、防除しましょう！～

4 斑点米カメムシ類への対策

過去2ヶ年は、斑点米カメムシ類による被害が少ないものの、2等以下の落等理由では、依然多数を占めており、油断は禁物です！地域が一体となって、農道・畦畔・休耕田などの雑草管理を徹底し、斑点米カメムシ類の生息しにくい環境を整えましょう。



雑草名：レドトップ



雑草名：ネズミムギ
(イタリアンライグラス)



雑草名：オオバコ

～斑点米カメムシ類は、図のようなイネ科雑草の実が大好き！これらの草に要注意です！～

< 対策 >

日ごろからの農道や畦畔などの草刈り

- ・省力的な方法として、除草剤の利用も検討しましょう。
- ・一斉防除前の草刈り+薬剤散布で、防除効果が一層高まります。

休耕田の適正な管理

- ・休耕田を放置すると、雑草が繁茂し、カメムシなどの生息場所になります。草刈りや耕うんなどで対応しましょう。
- ・河川や高速道路沿いなど公共地の雑草対策は関係者と協議しながら計画的に行いましょう。

農薬は登録内容に従って、正しく使いましょう！